

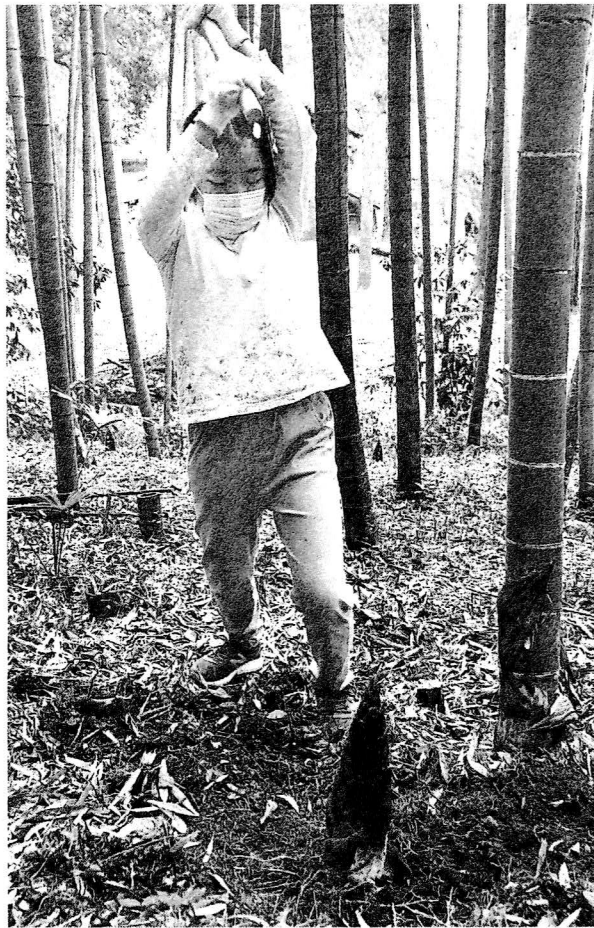
未来創生塾の親子が挑戦

「えいっ」とタケノコ掘り

桐生市の産官学民が協力して取り組む教育プログラム「未来創生

塾」(野田玲治塾長の「親子が1日、国指定重要文化財「彦部家住宅」

(桐生市広沢町六丁目、彦部篤夫当主)でタケノコ掘りに挑戦



だ。学校教育とは一味違った体験型の教育プログラムを通じ、子ども感性を育み、地域で、そして世界で活躍できる人材を育てよう

塾生たちは、タケノコの目元をめがけ、くわを振り下ろした(彦部家住宅で)

と、2013年に始まった同塾。毎年5月に彦部家で行うタケノコ掘りは、「わがまち発見歴史編」の恒例プログラムとして、塾生たちに人気があるが、新型コロナウイルス禍で昨年は中止となっていた。

1日午前の部には、前年度入塾した8組の親子が参加。彦部さんをはじめ、群馬大学工学部・理工学部の同窓会組織である工業会桐生支部のメンバー5人の協力のもと、2班に分かれてタケノコを掘った。

今年も例年の3割程度。掘り方を学んだ親子は、貴重なタケノコを見つけると、周囲をいねいに掘り、細身のくわを持ち上げ、根元めがけて「えいっ」と振り下ろした。桐生東小5年の高橋実来さんは「狙った場所にくわを振り下ろせるか、緊張した」と、貴重な体験に満足そう。「タケノコご飯にしようか」と、さっそく家族で話し合っていた。